

## 令和3年度第1回 枝幸町まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議（書面開催）

【書面開催付議日】令和3年6月1日

### 《議 事》

#### （1）会長・副会長の互選について

枝幸町まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議設置条例第4条の規定により、委員の互選により会長・副会長を定める。

■会 長 小 林 智恵子 氏

■副会長 葛 西 博 幸 氏

#### （2）第2期枝幸町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況等について

別冊「令和2年度末枝幸町ふるさと創生総合戦略進捗状況と効果検証」

「地方創生関係交付金事業の効果検証」

「地域おこし協力隊活動報告」

（説明要旨）

### 1. 枝幸町ふるさと創生総合戦略 進捗状況と効果検証

「枝幸町ふるさと創生総合戦略の進捗状況と効果検証」についてですが、全ての内容を記載いたしますと膨大となることから、主だった施策をピックアップさせていただき、表中各指標の「進捗率（R2末）」と、その下の欄の「R2効果検証」について記載させていただきます。その他につきましては、資料をご一読いただき、詳細の説明は割愛させていただきます。

2ページ1番上の、枝幸町は子育てをしやすい「まち」だと思う割合では、「そう思う・どちらかというと思う」割合は平成30年の調査ですが、59.3%です。下の効果検証では、令和5年3月末に枝幸幼稚園の閉園方針を受け、閉園した後も質の高い幼児教育を提供していくため、今後の施設のあり方と方向性を示す「認定こども園基本構想」を昨年10月に策定しております。基本構想では、公立の幼保連携型の認定こども園を新たに建設し、令和5年4月の開設に向けて、現在準備を進めております。

次にその2つ下、ファミリーサポートセンター会員数・援助活動数では、進捗率は会員数124人で援助活動数は176件です。

ファミリーサポートセンター事業は平成30年度から運用が開始され、にじの森の運営団体でもある「にじをつなぐ会」が事務局となってアドバイザーを置いて、

積極的な活動から会員と援助活動も増加傾向にあり、少しずつ事業の認知度が上がっています。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う活動の制限から、活動数は減少したものの、加入申し込みについては前年度比で20%程度増加となっています。

次にその下、保育資格者修学資金貸付・就業時一時金貸付事業を通じた就業者数では、不足する保育教諭を育成・確保する環境を整えることにより、質の高い幼児教育など、子育て支援の充実に資するため、養成施設等を卒業後、1年以内に保育教諭として枝幸町に勤務しようとする学生を対象に、その修学に必要な資金の貸付けを行う「保育教諭修学資金貸付制度」を新たに創設し、本年4月から施行しています。

3ページ1番下の、医療技術者等修学資金貸付・就業時一時金貸付事業を通じた就業者数では、令和2年度末で20人となっています。昨年度は修学資金の新規借入者は4名おり、これまで9名の方が利用しています。また、就業時一時金は5名の利用がありました。目標値の10人の倍となる20人が本年4月現在で就業しており、一定程度の目的は果たされていると考えています。

4ページ中段、公共交通サービスに対する満足度では、12.2%です。持続可能な交通手段の確保と住みよいまちづくりを目指すため、行政・町民・交通事業者等の関係者が主体的に推進する公共交通のマスタープランとして、枝幸町地域公共交通網形成計画を令和元年9月に策定しています。その中で将来像として、バス路線の効率化と持続可能な公共交通体系の再構築を目指すこととしていますが、大きな課題のひとつとなっている、枝幸南部地区山間部の公共交通空白地域における新たな交通の施策として、デマンド型交通（乗合タクシー）の実験運行を昨年10月から行っています。今後、本格運行に向けた整備と現在の公共交通体系の再構築を進めていきます。

5ページ1番上、ふるさと回帰ネットワークを通じたUターン者数から3つ下、町内中学校から枝幸高等学校への進学率までは関連しますが、令和元年度に枝幸高等学校と地域が連携して、「学力向上」と「ふるさと教育」を柱とした「ふるさと教育推進プロジェクト」を立ち上げ、将来の地域人材を育成する取り組みを現在進めています。その中のひとつとして枝幸高校内に公営塾を開設し、生徒の学力向上のための学習指導を行うとともに、高校の授業として行われる総合的な探究の時間「えさし探究」を連携して実施するなど、ふるさと教育の充実を図っています。

昨年は、コロナの影響もあり思うような活動ができませんでしたが、地域とつながりを持った「ふるさと教育」の推進からグローバル人材の育成を図るとともに、

地域の担い手の確保に努めて行きます。

7ページ中段、サポートデスクでの外国人へのフォロー件数では、令和2年度は202件です。外国人材は地域の経済活性化に重要な存在であり、外国人材の地域定着に向け、受入支援や共生支援などを行うワンストップ相談窓口「多文化共生サポートデスク」を昨年4月に設置しました。開設により相談件数も増え、開設の効果が見られます。継続して外国人材の生活支援と活躍を促進して行きます。

8ページ1番上、新規就農者数では、令和2年度末で6個人・1法人となっています。昨年はコロナの影響から誘致活動がほぼできなかった状況ではありましたが、現在研修中である就農予定者は、計画どおり今後就農予定となっています。

ひとつにおいて林業就業者数では、令和2年度末で60人となっています。今年度から森林環境譲与税活用事業として、当町の森林整備の推進と成長産業化を図るため、林業就業者の担い手対策と就業条件の改善を行うための総合的な事業を実施することとしています。

ひとつにおいてホタテ漁船乗組員の雇用者数では、令和2年度末で86人となっています。乗組員の確保は、近年、困難な状況が続いており、今年度は1隻の休業による操業体制の縮小が余儀なくされています。このため乗組員住宅の建設などといった人員確保に向けた施策が課題となっています。

その下、食品取扱施設HACCP導入件数では、令和2年度末で3件となっています。昨年度、海外輸出相手国の基準に沿ったHACCPに基づく食品衛生管理の導入を促すため、枝幸町食品産業輸出向けHACCP等対応設備事業補助金の交付制度を創設しました。今年度1件の事業者がHACCP導入のための施設整備を予定しており、さらなる製品の品質化による輸出増大や販路拡大により雇用の安定化へとつなげていきたいと考えています。

9ページ中段、気軽に体験できる観光メニュー件数では、令和2年度末で4件となっています。こちらも昨年はコロナの影響から実施はできませんでしたが、カヌーやボート遊覧などといった対応が容易にできるメニューを4件確立し、観光ガイドについても現在研修中です。

10ページ上から2つ目、平成29年度からスタートしている奨学金償還支援助成利用者数では、令和2年度末では54人の利用を見えています。昨年度の認定者数は8名が新たに認定を受けています。しかしながら、その利用者の約半数が町職員で

あることから、公費負担の均衡などの観点から制度の見直しを図り、認定者が町職員である場合の認定期間の縮減を行っています。

その2つ下、(4)良好な環境の保全、リサイクル率では、昨年4月から「雑がみ類」と「金属類」を資源ごみとして追加し、一般ごみ5区分、資源ごみ12区分としています。また、12月には枝幸町公共施設等LED化推進計画を策定しまして、本年7月には全町内防犯灯のLED化が完了予定となっています。各町有施設においても計画的にLED化を進めて行きます。

#### 【有識者会議委員からの意見等】

- 修学資金貸付・就業時一時金貸付事業を町職員が不足している人材に限定して行っているが、町内事業者が必要としている(不足している)人材についても適用すべきであり、そのことが、人手不足の解消、UIターンや定住促進の一助となると考えます。
- 本校に対してのご支援、ありがとうございます。公営塾も軌道に乗り、塾生も多くなりました。本校にも言えることですが、「そこで何をやっているか」は積極的にPRをしなければ、第三者には伝わりません。私は、保護者・生徒に、町は町民に、お互い積極的に「何をやっているのか」PRしていきましょう。
- 子育て世代で一軒家を探している、土地を探しているという話を聞き、私も相談を受けるので、空き家の紹介や町有地の売却が活発になる事に期待します。  
公営塾の存在が小中学生の保護者にいまいち伝わっていない事と、役場職員でも公営塾や地域おこし協力隊の名前と顔を知らずとても残念です。公営塾自体は好評のようなので、PRして周知に力を入れてみてはどうでしょうか？“知られていないのは存在しないのと同じ”なので。
- 先日、6/2の日刊宗谷に、商工会青年部の「縁結びツアー」で一組の入籍があったと、うれしい記事がありました。この新型コロナ過で、アイデアがあっても、行動に移すのが、なかなか大変だと思いますが、しんぼう強く頑張ってくださいと思います。
- 2. 人の流れ・地域づくり×ひとづくりの中で枝幸高校への進学率低下が気になります。町内中学校だけでなく他市町村からも入学希望となる魅力ある特色のある学校への変換が必要と考える。  
3. 豊かな地域資源×しごとづくりの中で高校生が進学後、大卒資格や専門学校での技術の活かせる企業作り、誘致の検討

## 2. 地方創生関係交付金事業の効果検証

別冊の2つ目、「地方創生関係交付金事業の効果検証」ですが、国の地方創生関係の交付金を活用した事業について、より詳細に効果を検証し改善に向けた事業資料として、検証した内容をお示しさせていただきました。

詳細の記載は割愛いたしますが、事業の概要についてのみ記載いたします。

高校と地域が連携した「ふるさと教育」推進プロジェクトについてですが、当町の人口は、平成18年の合併時から約2,000人が減少し、急速に少子高齢化が進んでいます。唯一の普通科高校である道立枝幸高等学校への進路希望者も近年では、札幌市や旭川市など、都市部にある高等学校へ進学する生徒の割合が30%を占め、枝幸高校への進学率が低く、令和8年には現在の1学年2学級の80人定員から、1学級40人定員へ減少し、将来的には高校配置の存続も危ぶまれる推計がされています。

そのため、総合戦略の効果検証でも触れましたが、令和元年度に枝幸高等学校と地域が連携して、「学力向上」と「ふるさと教育」を柱とした「ふるさと教育推進プロジェクト」を立ち上げ、枝幸高校の魅力化の推進によるICT環境の整備や公営塾の開設など、将来の地域人材を育成する取り組みを進めています。

## 3. 地域おこし協力隊活動報告

別冊の3つ目は、「地域おこし協力隊活動報告」を取りまとめしております。

上記2の「ふるさと教育」推進プロジェクトの中の公営塾の開設に向けスタッフ3名を地域おこし協力隊として迎え入れております。

昨年5月には塾長候補1名が着任、その半年後には2名のスタッフが加わり体制の基盤が図られました。

着任からの取り組みや成果、さらには課題・改善点について整理をしておりますので、詳細についてはお読みとりいただければと思います。

### **【有識者会議委員からの意見等】**

#### **➤地域おこし協力隊の活動について**

今活動中のふるさと教育分野以外にも、必要だと思う。枝幸町で暮らす住民がわくわくする町作り、都会から枝幸に来た人が住み続けたい町作りを外部（協力隊の）からの意見を参考に進めていったら、おもしろい町作りが出来ると思う。

上手く進めている町に視察に行ったり、話を聞くのも良いと思う。